

官版

國法汎論

下帙

第八冊

第五卷

五
五
一

明治七年刊行

イ、カ、ブルン、著
從五位加藤弘之諱

下帙第八冊

國法汎論

文部省

大審院文庫
和書門
第三十九號
第一卷
第七冊
入

國法汎論卷之九上目錄

國家ノ教育事務ニ就テ論ス

第一款 國家ト神道ノ關係

第二款

第一 一個人信仰自由ノ權ヲ保護スル

10 奉教ノ自由

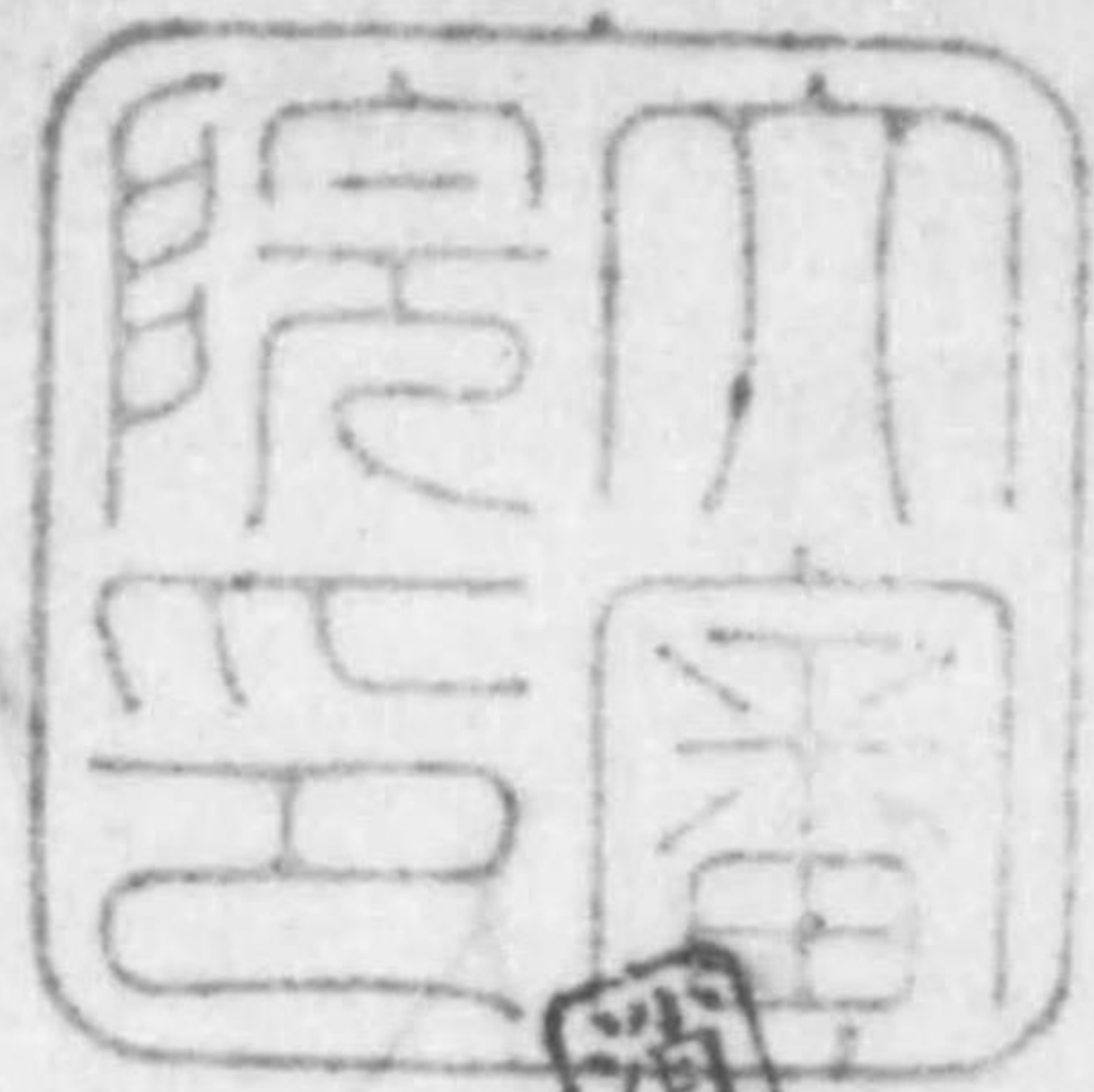
第三款 法ヲ以テ奉教自由ノ權ヲ限制ス

ル

第四款

B200
B 2
1 68

下帙第八冊



消印



國法汎論 卷之九上目錄

第二 國教

國法汎論卷之九上

瑞士 イ、カ、ブルロエリ 著

加藤弘之 譯

國家ノ教育事務ニ就テ論ス、
ス、スタ
一、ホ
ル、
デ
ル、
ク
ル
ツ
グ
ル
ツ

第一款 國家ト神道ノ關係
ス、
ヘ
ル
ヘ
ル
ト
ニ

レリギオン
〔按〕
原語、
ト、
キ
ル
ヘ
〔按〕
原語、
ナ
ル
ニ
語
ノ

意、或ハ互ヒニ混用スルヲアリト雖、其義元來
全ク相異ナリ、レリギオンナル語ハ、神人合體ノ

ノ義ヲ徴レ、キルヘナル語ハ、信者等敬神ノ為メ
 ニ相合同スル一團ヲ徴ス、○神道（按以下皆神道ヲ譯レ、キルヘナル者ハ、人ノ靈魂ヲシテ幽界中ニ於テ天神ト相合契セシメ而レテ其感格ニ由テ、遂ニ完全具備ノ者タラシムルヲ以テ、其本性トナス然ルニ教會ナル者ハ、信神ノ道ヲ行ヒ及ヒ之ヲ清淨ニ為スカ為メニ立ル所ノ顯界上ノ會社ナリ、

太古ノ世ニ於テハ、未タ此緊要ナル區別ヲ明悟スルヲ能ハサリキ、太古草昧ノ民ハ、何ノ國ニ論

ナク、人世ノ事ハ、總テ一神及數神ノ管理ニ歸スル者ナリト思量セシカ故ニ、國家ノ理及其法制等ニ至リ、一ツモ此心根ニ基資セサル者ハアラサリキ、是ヲ以テ草昧ノ世ニ於テハ、國家ノ主タル者ハ神ニシテ、神ニ代リテ、神意ヲ奉行スル者ハ、即チ教士ナリトセリ、之ヲ目シテ神主政體ト云ス、神主政體ハ、即チ太古草昧ノ世ノ初政體ナリ、然ルニ後世ニ及ヒ、國家ノ主タル者ハ、實ニ人ニシテ神ニアラサルノ理ヲ悟リ、而テ政權ヲ以テ、實ニ人主ニ寄托スルヲトナレリ、去レテ神道ハ、依

基督降世ニ及テ、始テ全ク此ノ如キ旨意ヲ變革
シタリ、抑基督ノ傳ヘタリシ神道ハ、嘗テ羅馬或
ハ猶太國ニ於テ其政府ヨリ布施セシ神道トハ、
全ク異ニシテ、基督ハ決シテ國教ノ道士及宣士
トナラス、且絶テ國家ノ事ヲ掌リ、及國家ノ權柄
ヲ握ルコトアラザリキ、基督常ニ謂ヘリ、吾ハ敢テ
自ラ此現世界ニ来リシニアラス、天神吾ヲシテ、
特ニ此處ニ来ラシメタリ、吾ハ唯吾カ父〔按〕天神
ノ教フル所ニ從テ論述スト、○基督ハ真ニ天神
ノ己ヲ現世界ニ派遣セシ意ヲ悟リ、及其身ハ天

神ト同一體ナルヲ了セリ、故ニ基督ノ神靈ハ實
ニ天神ト相異ナル所ナカリキ、此ヲ以テ他ノ預
言者〔按〕將來ノ言ヲ前言ノ如ク、絶テ
上帝曰云々ノ語ヲ用ヒス、必ス吾實ニ汝ニ語ラ
シ云々ノ語ヲ用ヒ、且吾ハ真ト及活ナリト安シ
テ云ヘリ、○基督ニ精神ヲ稟賦セシ神ハ、即猶太
國太古ノ耶和華神〔按〕一真ト同ウレテ、決シテ一國
ノ神ト稱スヘキ者ニハアラザリキ、基督ハ惟一
真神ヲ推尊シ、之ヲ以テ宇宙萬物ノ造主、世界蒼
生ノ父ト為セリ、

是故ニ基督ノ神道ハ絶テ國家ノ管轄ヲ受ケス、
加之、惟一真神ノ啓示言オツヘンバールンダ所接
言、ナルヲ以テ、當時國家ノ意思ニ背テ起リシ者
ナリ是ヲ以テ此教當時ニ在テハ、大ニ國家ノ為
ニ侮辱セラレ、遂ニ驅逐セラル、ニ至リシカ尺、
夙ニ此教ニ歸依セシ門徒ノ心志ヲ深ク感化シ
テ、大ニ其區域ヲ擴ムルヲ得タリ、○教祖按基督
ハ猶太國ノ神ヲ誅謗スルノ大罪アリトレテ、遂
ニ死刑ニ處セラレタリ、然レ其徒弟等ハ、此真道
ヲ廣ク傳播センカ為、ニ心ヲ竭シカラ極メテ、當

時ノ國教ヲ排撃シ、靈魂永遠滅セサルノ真理ニ
安シテ、此道ノ為メニ遂ニ潔ク現世ノ生命ヲ失
ヘリ、

基督教起立セシ所以ノ原由、此ノ如クナルカ故
ニ、此教ヲ奉スル者、遂ニ左ノ二大原則ヲ悟ルニ
至レリ、即**第一原則**神道ハ元來國家ノ創立セシ
所ニアラサルカ故ニ、教旨ハ、決シテ國家ノ管轄
ニ屬ヘキ者ニアラス、**第二原則**神道ハ一個人ヲ
レテ、天神ノ心靈ヲ悟ラシメ、而テ永遠不滅ノ人
魂ヲレテ、天神ト合一ナラシムルモノナリ、○是

故ニ神道ナル者ハ、絶テ人世ノ法ニ關係スル者
 ニアラス、全ク永遠不滅ノ精神界ニ屬スル者ナ
 リ、基督云ヘルアリ、「吾事ハ此現世界ニ係ルヲニ
 アラス」ト、

右第一ノ陰原則チガナリヘ、チツ、唯國家ノ管
 理ヲ拒防スルヲ主トス、故ニ陰
 原則ヲ、一般ニ遵奉スルニ至リシハ、第二ノ陽原
 則ボシチルヘ、チツ〔按〕人ヲレテ天神ト合体ノ弘
 通ニ用ヒラレシヨリモ早カリキ基督教始テ起
 リシヨリ、教會タル者、其教旨ノ國家ノ意思及指
 令ニ從屬スルニ至ルヲ防カント欲シ、常ニコノ

事ニ盡カシ、以テ國家ニ對シテ、自ラ神道ヲ擁護
 シ又兼テ自己ノ獨立ノ基礎ヲ保護シタリキ、○
 但、其後ニ至リテモ、仍カ國教ト稱スル語アリト雖
 且、古時稱スル所ノ國教トハ、其義全ク相異ナレ
 リ、新義ノ國教ハ、決シテ國家ノ神道、若クハ一民
 種ノ神道ニアラス、故ニ其教旨及其規律タル、曾
 テ其基、テ國家ノ憲法ヨリ資取セス、唯全ク國家
 ノ權柄ニ從屬ス可ラサル啓示言〔按〕前ニヨリ資
 取レテ偏ニ之ニ依賴スルヲ務メタリ、○此神道
 ヲ國教ト稱スル所以ハ、蓋、國家ノ為ニ尊信敬仰

セラル、ヲ以テナリ、此神道ハ國家ノ准許ヲ得
 テ、始テ立チシニアラヌ、故ニ敢テ國家ノ制馭ニ
 就ク者ニアラヌ、國家却テ此神道ヲ尊信敬仰レ
 テ、全ク其教旨ニ恭順スルヲトナレリ、
 第二ノ原則ハ、所謂一個人、天良是非ノ自由ゲ
 是非スルハイトセ、天賦ノ良心ヲ以テ、事ヲ
 是非スルノ自由ヲ云フ、殊ニ吾カ是トスル神道
 自由ヲ云フ、ノ理、因テ生スル所ノ本源ナリ、然ル
 ニ古来ヨリレテ教會或ハ此原則ヲ遵守セサリ
 シノミナラス、若一個人、信神ノ事ニ於テ、世間一
 般ノ教論ト相異ナル所見ヲ抱クアレハ、則テ教

會直ニ國家ノ兵力及、國家ノ刑法ヲ假テ、之ヲ嚴
 罰シ、以テ不滅ノ靈魂ヲレテ、妄ニ己カ意ニ從ハ
 レメン、トテ務メタリ、○去レ、此教會ノ威權甚強盛
 ニシテ、國家ヲレテ、敢テ神道上ニ其權力ヲ施サ
 シムルヲナク、教會却テ數百年間國家ヲ使役シ、
 其力ヲ假リテ以テ、一個人ノ信神心ヲ擅制シタ
 リキ、但、後世ニ至リ、教會、國家兩ナカラ、此ノ如キ
 處分ノ甚、基督教ノ本旨ニ背戾セルヲ自悟スル
 ヲ得タリシハ、蓋、全ク數回ノ大事件、及、大戦争ヲ
 經過シタルニ由ルナリ、

可ラサルノ理モ、亦瞭然タル可シ、總テ國權及フ
 所ノ疆界ハ顯明ナル者ナリ、〔按〕國權決シテ人ノ精神内ニ及ハサル
ヲ云國家立ル所ノ法制ハ、形貌上ニ顯ハル、者
 ナリ、〔按〕國家ノ法制亦精神唯一個人其信神心ヲ
 上ニ開セサルヲ云フ、唯
 外貌ニ發表スル片ハ則、始テ人世ノ法ニ屬スル
 者トナルナリ、○是故ニ神道ヲ信仰スルノ自由、
 即天良是非ノ自由〔按〕第一款ハ、決シテ近今法學
 ノ開明ニ由テ始テ生シタルニアラス、元來決レ
 テ人世法ノ束縛ヲ受ク可キ者ニアラサルナリ、
 何トナレハ此自由ノ權ハ、天神ノ直ニ人ノ靈魂

ニ賦與スル所ナレハナリ、蓋冥々中ニ人ノ靈魂
 ヲ制馭シ、且之ヲ完全ニナス者ハ、獨天神ナリ、天
 神此事ヲ為スカ為ニ、自己ト人ノ靈魂トノ間ニ、
 冥々ノ通路ヲ開キタリ、○天神人ノ靈魂ニ天神
 ヲ信仰スルノ自由權ヲ賦與シ、終ニ此權ヲレテ
 幽冥ノ權タラシメ、以テ國家ノ暴權ヲ脱セシメ
 タレハ、此權ハ決シテ現世ノ國ニ屬スル者ニア
 ラス、必永遠不滅ノ天國ニ屬シテ、全ク天神ノ制
 馭ヲ受クル者ナリ、是故ニ國家ハ敬神ノ道ニ於
 テ、此自由ヲ認許シ、且之ヲシテ安全ナラシムル

ノ義務ヲ負擔セサル可ラス、凡、國家ハ此自由權
上ニ就テ、此義務ノ外決シテ他ノ權力ヲ用フ可
ラサルノ理ヲ知ラサル可ラス、

〔第二〕是故ニ一個人信仰ノ自由ハ、全ク靈魂ニ屬
スル者ニシテ、決シテ國家ノ法制ニ出ル者ニア
ラスト雖、彼、奉教ノ自由（選）人々自ラ是トスル所
由ナノ如キハ、既ニ外貌ニ顯ハル、（選）教派ニ歸依スルノ自
由ニ自ラ人世ノ法ニ屬セサル能ハス、而テ此自由
權ハ殊ニ信仰ノ自由ヨリ生シ来ル者ナルヲ以
テ、國家此自由權ヲモ、亦必、信仰ノ自由ノ如ク容

易ニ認許スルヲ要ス、彼ノ「人々自ラ是トスル教

旨ヲ自由ニ道出スハ、即、其人ノ權利ナリ、何者此

事亦人ノ義務ナレハナリ、ト云ヘル語ハ、井子

〔接〕瑞士人、一千七百九十九年、カ熱心ニ演述セル

者ニシテ、決シテ之ニ抗抵スル所ノ論說アル

ナシ、○去、（接）奉教ノ「ハ、即、外貌ニ顯ハル、（接）「ナ

ルヲ以テ、必、國家ノ法制ヲ以テ或ハ之ヲ保護シ、

或ハ之ヲ限制セサル可ラス、是故ニ此事ノ自由

元来無限ナレ、亦法制ノ為ニ保護限制セラレ

ルニ至リテ、遂ニ法制ノ區域ニ屬スル者トナル

ナリ、

〔第三〕國家縱令、人々自ラ是トスル教派ヲ奉スルノ自由ヲ保護スルトテ、人々信仰ノ自由ニ於テハ、決シテ妨ケナキト明カナリト雖、其信仰ヲ、外貌ニ表シ、言辭ニ發スルヲ得サルノ害アルカ故ニ、必ズ國家ノ權ヲ以テ、之ヲ保護スルト甚、必要トナルナリ、是故ニ國家ハ宜シク意ヲ用ヒテ、人々自ラ是トスル教派ヲ奉スル自由權ノ妨害トナル者ヲ、悉皆驅除セサル可ラス、其方法即、左ノ數件ニ舉ルカ如シ、

〔甲〕國家ハ一個人ニ強迫シテ、其信セサル教派ニ從ハレムルノ權ナシ、

然ルニ中古基督教漸蔓延スルノ時ニ於テハ、未嘗テ此理ヲ知ラサリレカ故ニ、頻ニ火及劍ヲ用

ヒテ、此神教ヲ傳播スルトテ務メ、〔按〕中古ノ世ニ於テハ基督教

ヲ傳播スルルノ方法、甚暴戾慘刻ニシテ、若、〔按〕強火及劍ヲ用ヒテ、〔按〕此教ニ從ハシムルヲ常トセリ、〔按〕而テ勝

者ハ必ズ敗者ヲシテ、己カ信スル所ノ教ニ服從セ

レメタリ、是故ニ其始ハ敗者決シテ基督教ニ心服セス、唯之ヲ口ニ誦スルノミナリシカニ、其後

ニ至リテハ勝者敢テ暴力ヲ用ヒス、實ニ神道ノ
 真理ヲ論ビ、敗者ヲレテ之ニ心服セシメント欲
 シ、力ヲ盡セシニ由リ、遂ニ十分其功ヲ奏スルニ
 至レリ、

去レ此ノ如ク強迫シテ神道ヲ傳播スルカ如キ
 ハ、全ク基督教ノ本意ニ背キ、基督ハ外面ノ權力
 ヲ用フルコトハ、總テ之ヲ為サ、ルノミナラス、其
 徒弟ニ至ルマデ、之ヲ禁レテ為サレメサリキ且、
 國家真誠ノ法ト全ク相戾ル者ナリ、是ヲ以テ今
 時ハ一般ニ良正ノ原則ヲ認用スルコト、ナレ

リ、

○ 普魯士ノ憲法ニ云、國內ノ住民ハ各、信仰ノ

自由、及、天良是非ノ自由權ヲ十分ニ有ス可シ、

國家敢テ憲法ヲ以テ、之ヲ障礙スルヲ得ス、凡

何人ニ論ナク、神道ニ就テ私ニ自己ノ所見ヲ

述ルハ、必、國家ノ規律ニ遵フヲ要セスト、又同

國ノ國憲第十三章ニ云、奉教ノ自由、神道ニ就

テ會社ヲ結フノ自由、及、尋常家内ニ於テ禮拜

ヲ為スノ自由、公然ニ禮拜ヲ為スノ自由等、悉

皆國家之ヲ保護ス可シ、凡、民人タルノ權利及、

公民タルノ權利〔按一民人タルノ權利ヲ云ハ、國家ニ関スルノ權利トハ、國家ノ公事ヲ得ルト否ナルトハ、其人奉スル所ノ教派ニ關係スルトナレト、〇佛國一千八百十四年文化十ノカルテ
〔按國憲ニ云、各人皆同レク自己ノ教派ヲ奉スルノ自由權ヲ有シ、且、其故神ノ一ニ於テ皆同一ノ保護ヲ受ク可シト、〇然ルニ歐洲南方ノ羅馬人種各國ニ於テハ、今仍全ク此自由ヲ與フルニ至ラズレテ、大ニ限制スル所アリ、例ハ葡萄牙一千八百二十六年文政九年ノ國憲第六

章ニ云、獨羅馬加特力教ハ終始葡國ノ大教タル可シ、其他ノ教派ハ唯外國人其家内ノ禮拜ニ於テ奉スルヲ許ス、但決シテ公然タル標牌及、殿堂ヲ建ルヲ許サズト、〇瑞士合邦ニ於テハ、一千八百四十八年嘉永元年ノ國憲ニテ仍奉教ノ自由ヲ全ク許可セサリレハ、世ノ普ク知ル所ナリ、即其六十六章ニ云、既ニ認許セラレタル基督教派ニ從テ禮拜ヲ為スノ自由ハ、合邦中悉ク之ヲ保護ス可シト、然ルニ其二三邦ニ於テハ、既ニ其邦憲中ニ決シテ教派ヲ論セス、

十分ニ認許スルノ法ヲ立テタリ、
 國家ハ臣民ヲシテ、必、其ノ一教ヲ奉スヘキ旨ヲ
 指令スルノ權、并ニ必、禮拜堂ニ詣レテ禮拜ヲ行
 ヒ、或ハ罪科ヲ懺悔スヘキ旨ヲ指令スルノ權、決
 シテ有ルヲナシ、去レテ此自由權ハ、唯此自由權
 ヲ有スルニ堪フヘキ、成人以上ノ者ニ與フルノ
 是故ニ神道ヲ以テ幼童ヲ教育スルノ一ニ至
 リテハ、獨、此理ノミヲ以テ推論ス可ラス、總テ人
 ノ父母タル者ハ、通例其子ニ代リテ其奉教ノ自
 由權ヲ有ス可シ、去レテ父母若、其子ノ教育ニ注

意セス、或ハ其教育ノ方法甚、不良ナルハ、於テ
 ハ、時宜ニ因リ國家幼童ノ看護ニ心ヲ用ヒテ、父
 母ノ教ヘサル子ヲシテ、神道ノ教育ヲ受ケシム
 ルヲアル可シ、
 ①

所謂強洗ヲ行ハレメテ、按強ヒテ洗禮
 徒、其子ヲ基督教ニ歸依セシムルノ心ナケレ
 ハ、國家其子ヲシテ強ヒテ此教ニ歸依セシム
 ル能ハサル固ヨリ當然ナリ、按方今歐洲ニ猶
雜居スト雖、大抵猶太教ヲ奉レ然ルニ父ハ既
テ、基督教ニ入ル者甚タ少シ、

ニ基督教ニ入ルト雖甚懶惰ニシテ其子ニ洗禮ヲ行ハシメス、且絶エテ神道ノ教育ヲ受ケシメサルキニ於テハ、國家必之ヲ看護シテ強ヒテ強育ヲ受ケシメ、以テ其子ノ真ノ自由權ヲ保護スルヲ要ス、○奧地利一千八百六十八年三月二十五日ノ憲法ニ、父母タル者ハ、其子ヲシテ教育ヲ受ケシムヘキ旨ヲ記載シ、且此義務ヲ以テ、兼テ權利ト為スヘキ旨ヲ規定セリ、

〔乙〕教會ナル者、人々ニ奉教或ハ敬神ヲ勸誘スル

ニ就テ、暴ニ其權カヲ施行セント欲スルヲレハ、國家必之ヲ制止スルノ權アリ、但教會自ラ奉教ノ制ヲ確定シ、及靈魂精神ニ屬セル諸方法ニ由テ、神道ノ益隆盛ナランヲ務ムルノ權ヲ有スルハ、固ヨリ當然トス、是ヲ以テ教會懲戒法キヘンツツフトト〔按〕教士及門徒ヲ施行スルノ權ハ、必キフ懲戒スルノ法ヲ云フ、固ヨリ當然ナリ、故ニ教會ノ掌中ニ在ルヘキヲ固ヨリ當然ナリ、故ニ一個人若其教派ヲ信セサルニ方リ、教會之ヲ其徒中ヨリ逐フヲアリテ、國家敢テ此處ニヲ制止スルヲ得ス、

然リト雖教會甚狹小ナル胆量ヲ以テ、此ノ如キ
 震分ヲ為スルハ、却テ自己ヲ害スルニ至ル可シ、
 凡、諸教派ノ如キハ、皆時勢進步ノ度ニ應スル者
 ニシテ、一ツモ千古不易ノ教派ト稱スヘキ者アル
 一ナシ、是故ニ時勢進步ノ度ニ應シテ、上進開明
 セル教旨教制モ、亦必認許セサル可ラス、〔按時勢
 ニ應セ
 ル教旨教制起ルヲアレハ、決シテ之ヲ波羅持士
 妨ケスレテ許スヲ要スト云フノ意、

且教派ノ如キハ、殊ニ時勢相應ノ教旨ヲ主要ト
 スル者ナリ、○教會若其權ヲ恣ニシテ、國憲ヲ凌
 キ民權ヲ傷ヒ、及騷亂ヲ醸ス等ノヲアルキハ、國

家其權カヲ以テ、此暴權ヲ拒防スヘキ一固ヨリ
 正理ノ當然ナリ、

〔丙〕ビツンツ國〔按東羅馬
 國云フ、及中古ノ各國ニ於テハ、

基督教ニ歸依セスレテ異端ヲ信スル者ハ、必大
 罪人トナセリ、故ニ異端ヲ信スル一甚シキ者ハ、
 帝ニ之ヲ其門徒中ヨリ逐フノミニ止マラス、尚
 其所有ヲ沒收スルノ法アリキ、○然ルニ教皇プロバ
 トスノ威權トス宸モ盛大ニ至リシ以來ハ、基督教ヲ奉
 セスレテ異端ヲ信スル徒ヲ刑スル一甚慘刻ヲ
 極メ、通例ハ火刑ヲ以テ之ヲ殺ストトナセリ、是

故ニ一個人自ラ真確ナリトシテ信奉スル所ノ
 教旨、若公衆一般ニ奉スル所ノ教旨ニ背戾スル
 片ハ實ニ重罪人トナルニ至レリ、而テ此罪ヲ免
 カル、ヲ得ル者ハ、獨己カ真確ナリトセル教旨
 ニ從ハス、自ラ欺イテ偏世間ニ媚從スル者ノミ
 ナリキ、○教會改正年代ニ於テ、ルオン〔按〕一千五百
 年及ヒカ、ルヒン等ノ諸英傑、教皇ノ蒙ハ大ニ基督
 ノ教旨ニ背キ、慘刺暴虐ノ事多キヲ憂ヒ、之ニ抗
 抵シテ、波羅特士旦ノ教派ヲ創開シ、以テ基督ノ首
 ノ正道ヲ興復セリ、之ヲ教會改正ト云フ、基督ノ首
 魁等〔按〕即ルヒン等ヲ云フ、ハ、久レク湮滅シタ
 ル天良是非ノ自由ヲ更ニ興復シテ、各人ヲシテ、

自ラ真確ナリトスル所ノ教旨ニ、自由ニ信從セ
 シメシカ為ニ、カヲ極メテ加特力教ノ暴權ニ抗
 抵シ、以テ波羅特士旦ノ一新派ヲ開キシ者ナレ
 也、其後此一新派ノ普ク行ハル、各國ニ於テス
 ラ、猶天良是非ノ自由ノ理ヲ失誤シテ、更ニ之ヲ
 屈害スルニ至レリ、○エストハーレン〔按〕獨ニ
 講和〔按〕所謂三十年間ノ戦ニテ、加特力及波羅特
 士旦ノ兩派ヲ同一ニ認許スヘキノ和約始テ立
 ナシカ也、其後ニ至リテモ、猶此兩派ノ外ニ、他教
 ノ獨乙國ニ入ルコトハ、總テ之ヲ禁シタリ、○路易

第十四仙國王一十六百三十八年生、四、八、頗
 學問詩文ノ進歩ニ力ヲ盡セシ君ニシテ、且文明
 開化ノ佛國ニ王タリレカニ、猶嚴刻ノ處分ヲ以
 テ、波羅特士旦教ヲ驅逐セリ、又自由權ノ最盛ナ
 ル英國ニ於テスラ、加特力ノ門徒ハ悉ク民權ヲ
 奪フテ、賤奴一スカラトナスニ至レリ、彼、一千六百
 八十九年元年祿ノ容忍令異教ヲモ拒防セス、共ニ
 之ヲ容忍レテ許ニ於テ、波羅特士旦ノ教旨ヲ信
 可スル者ト雖之ヲ背教ノ罪ニ處セサルトトナ
 セシハ、畢竟開明進歩ノ致ス所ト云フ可シ、去レ

加特力教ヲ奉スルヲ許スハ未タアラサリ
 キ、
 奉教ノ自由ヲ與フルヲ以テ、始テ國家ノ要則ト
 ナセシハ、實ニ北亞米利加ノ功ト云フ可シ、カル
 ヒニ教派按立セシ教派カ加特力教ニ抗抵シテ創
 十零九年仙國ノヨシニ生レ、其六ノ教士ニシテ、
 敬神ノ心最深厚ナルロゲル、井ルリアムスハ、一
 千六百三十六年寬永十英ノ一藩屬地プロヒダ
 ンニ於テ、自令奉教ノトニ就テ、決シテ強威ヲ
 施ストアル可ラサル旨ヲ布令セリ、然ルニ其他

羈絆ヲ脱シ、遂ニ遠ク進歩スルヲ得ルニ至レリ、
普魯士國王フリードリヒ、デルゴローセハ、此ノ
如キ自由ノ理ヲ世ニ告諭シ、及之ヲ施行セシ嚆
矢ナリキ、此王カ「吾カ普魯士國ニ於テハ、各人皆
自己ノ式様ニ由テ、靈魂ノ幸福ヲ得可シ〔按〕各人
トスル所ノ道ニ由テ、神ヲ敬スレハ、皆靈魂ノ幸
福ヲ得可シ、決シテ彼此ノ教派ニ束縛セラハ、幸
ヲ要セストト云ヒレハ、真ニ確言ト云フ可シ、凡
此時代ヨリ此自由ノ理、漸進歩ノ路ヲ得ルト
ナレリ、去レル其間更ニ障碍ナキニハアラサリ
キ、①國家嘗テ神道上ニ關シテ他教派ヲ制禁セ

レハ、實ニ暴虐ノ處分ナリシヲ自悟シ、且、國家ハ
元來各人ノ為ニ、奉教ノ自由ヲ保護スルノ義務
ヲ負擔スルト、當然ナルノ理ヲモ自悟スルニ至
レリ、是故ニ爾後ハ人ノ或、神道ヲ疑フハ、即、其靈
魂ノ健全ヲ失フ者ナリトナシ、而シテ決シテ之ヲ
目シテ、罪犯トナスカ如キトナキニ至レリ、

〔丁〕一教會ヲ離去シテ、他ノ一教會若クハ一教黨
ニ歸就スルカ如キハ、固ヨリ各人ノ自由權ニ任
ス可シ、國家敢テ其權ヲ以テ之ヲ罰スルヲ許サ
ス、却テ國家ハ各人ノ為ニ、天良是非ノ自由ヲ保

護レテ、其離去歸就ヲ自由ナラシム可シ、是即天
 良是非ノ自由ノ理ヨリ出ル所ノ要務ナリ
 但、今時ト雖離去歸就ノ自由、未全ク行ハルト云
 フ可ラス、何者國家ノ憲法ハ、方今實ニ此自由ヲ
 保護スルニ足ルト雖、唯一般ノ輿論仍此自由ヲ
 妨害スレハナリ、蓋輿論動モスレハ、各人ノ離去
 歸就ヲ嫌忌シテ、遂ニ其自由ヲ障碍スルニ至ル
 蓋國家ノ憲法遠ク民情ニ先行スルノ證ナリ○
 例、ハ一人他教ニ歸就スル者アルニ方、甲ハ之
 ヲ嘉賞シ、乙ハ之ヲ憎惡シ、甲ハ此歸就者ノ大功

ヲ希望シ、乙ハ此歸就者ヲ以テ、輕薄無恥ノ徒ト
 ナシ、其所行ヲ以テ私利ノ營ミ、私欲ヲ縱マニス
 ルノ處置ト為スカ如シ、是時ニ方リ、實ニ不偏不
 黨ノ心ヲ以テ、此歸就者ノ所行ヲ批評判定スル
 者ハ、僅ニ數人ニ過キサルノミ、○但、一般ノ輿論
 更ニ其歩ヲ進メテ、不偏不黨ナル憲法ノ地位ニ
 着スルノ時至ラハ、隨テ真確ノ一自ラ増益スヘ
 ク、且、輕薄無恥ノ徒、唯私利私欲ノ為ニ歸
 就スルカ如キ惡行モ、亦自ラ減少スルニ至ルヘ
 シ、一般ノ輿論此ノ如ク進歩シテ、各人ノ自ラ是

トナセル教派ニ歸就スルヲ平心ニ許シ、決レテ之ヲ常規ニ反シ、輿論ニ背キタル所行ト視做スカ如キトナキニ至ラハ、必^ス離去歸就ノトヲ以テ、或ハ功勞ト為シ、或ハ惡行ト為スヲ得可ラサルナリ、○凡^ソ、教道教派ノ數、枚舉スルニ違フラスト雖^キ之ヲ通觀スレハ畢竟其本旨一ニシテ、其權利モ亦一ノミ、然ルニ人ノ天性ヲ察スルニ、衆人略相同レト雖^キ之ヲ細別スレハ、則^テ人々些少ノ差異アルヲ視ル可シ、是ニ於テ元來教ヲ同シクシ、志ヲ共ニスル伴侶ニテモ、其人負衆多ナルキハ、其

中ノ數人、自^ラ他ノ數千萬人ト異ナル意見ヲ生スル無キヲ得ス、數人ノ意見果レテ他ノ數千萬人ト異ナルニ至ルキハ、此事遂ニ他ノ數千萬人ノ害トナラサルヲ得サルノ理ナリ、去レテ僅々數人偶^々異ナル意見ヲ主張シテ、此教派ヲ離去シ他ノ教派ニ歸就スルトアリテ、未^ダ曾^ラ此教派ノ威衰存込ニ関スルニ足ラス、若^シ實ニ數千万ノ人悉皆一時ニ他ノ教派ニ歸就シテ、其勢ヒ宛^ニ水ノ卑キニ就クカ如クナルキハ、始^テ此教派ノ情勢ヲ變スルニ至ルヘシ、是故ニ教會タル者僅々數人

ノ離去歸就ヲ、或ハ希望シ、或ハ憂慮スルカ如キ
 ハ、決シテ理アリト云フ可ラス、
 教會タル者、離去歸就セシ者ノ權利ヲ減少スル
 ノ方法數種アリ、之ヲ民權ノ屈害ビタルイフタイ
 ルト云フ、甚不正不善ナルコトナリ、必、嚴罰ヲ以テ
 之ヲ防制セサル可ラス、例ハ本人自ラ居地ヲ
 撰フノ自由ヲ限制シ、或ハ某産業ヲ營ムノ自由
 ヲ限制スル等ノ如シ、○若、教派ノ異ナルニ從テ、
 或ハ民權ヲ異ニシ、或ハ某教派ニハ民權ヲ限制
 スル等、公然タル國法アルハ、此教派ヲ離去シ、

彼、教派ニ歸就セル者、此派ニテ受ケ得タル權利
 ヲ決シテ、仍、保有スルヲ得ス、必、唯彼、教派ニ准許
 セラレタル權利ノミヲ受ケ得ヘキコト、固ヨリ當
 然ナリ、○例ハ猶太人種ハ猶太教ヲ奉スルニ
 因テ、其權利ヲ限制セララル、ト雖、若、基督教ニ歸
 就スルハ、必、此限制ヲ免カルヘシ、但、從來基督
 教ヲ奉スル者、若、又之ヲ離去シテ猶太教ニ歸就
 スルコトアレハ、必、唯猶太教ニ准許セラレタル權
 利ノミヲ得可シ、加特力教ヲ奉スル夫婦、及、加特
 力教ノ教士、若、波羅特士且教ニ歸就スルハ、則、

波羅特士且教派ニ准許セラレタル婚媾法及離婚法ニ從フヘ、キ者トナルヘシ、但教派ニ從テ此法ノ差異ヲ立ルノ規律アル間ノミ、此ノ如クナルベレ、又波羅特士且教派ヲ奉スル夫婦若加特力教ニ歸就スルハ、必相離婚スル能ハサル者トナルナリ、按加特力教ハ離婚ヲ許トナルヲ通則ト為ス、然ルニ儘專ラ此ノ如キ變化^按歸就ヨリ、權利及法ニ於テ目的トシテ、歸就ヲ企ツル者ナキニアラス、此事全ク不正不善ノ心思ヨリ生スル者ニシテ、蓋精神ニ係レル自由權ノ通弊ナリ、去レテ此通弊ヲ

矯正セシカ為ニ、全ク歸就ヲ禁スルカ如キハ、甚精神ノ自由權ヲ限制スル者ト云フ可シ、若政府歸就ヲ許スカ為ニ、縱令公然嘲笑ヲ受ルヲアリ、氏決レテ心ニ關ス可ラス、戊各人其家内ニ於テ、敬神禮拜ヲ為スノ自由權ヲ保護シテ、衆民等カ此自由ヲ妨害スルヲ制止スルハ、即國家ノ義務ナリ、而テ此義務ハ實ニ天良是非ノ自由ノ理ニ基ツク所ナルカ故ニ、決レテ之ヲ以テ、國家好テ施ス所ノ仁惠ト視做ス可ラス、但天良是非ノ自由ノ理ヨリ生スル所ハ、唯

スルハ、甚不可ナリ、蓋其分畫ス可キ境界殆判然
 タラサルヲ以テ、之ヲ分別スル一殊ニ容易ナラ
 サレハナリ、○試ニニパンタイスムス〔按〕天地万
 物即神ニ
 レテ、此外更ニ神ナル者アラヘチシヂーンスト
 サル旨ヲ主張スル學派ナリ、
 〔按〕禽獸草木等ノ神トレテ拜スル教門及今時ノ大教ナル基督教ヲ
 視ヨ、此諸教各畏敬信仰スル所ノ神アリト雖或
 ハ大ニ神徳ヲ畏敬セサル一モ亦絶テナキニア
 ラス、然ルニアタイスムス前ニ出ツノ如キハ、人之ヲ
 實ニ神ヲ疑フ異端ナリト稱スト雖是全ク非理
 ノ言ト云フ可レ、蓋此教門ト雖亦自ラ造化ノ能

カヲ認ムル所アリ、果レテ造化ノ能力ヲ認ムル
 者ナレハ、豈全神ノ賞罰ヲ知サル者ト云テ可ナ
 ランヤ、○但以上論スル所ノ當否如何ニ拘ハラ
 ス、彼靈魂ヲ制馭スル者ハ、現世ノ國家ニアラス
 獨、天神ナリト云ヘル理、既ニ瞭然疑フ所ナキニ
 至ラハ、常ニ光ヲ避ケ暗ニ就カント欲スル靈魂、
 〔按〕靈魂ハ專ラ現世ノ顯界ニ属セシテ、永遠
 ノ幽界ニ属スル者ナルカ故ニ斯云フナリ、
 縱令迷溺スル一アルモ、國家敢テ之ヲ罰スルノ權
 ナキ一論ヲ俟タス、且、靈魂ノ大ニ迷溺ヲ生スル
 一アルハ、是或ハ其上進シテ明覺ノ地位ニ達ス

ルノ階梯ト云フ可キソ、凡、各人自ラ真確ナリ
 トスル所ニ必背ク可ラス、是故ニ神ヲ信仰スル
 片ハ勿論、縱令之ヲ疑フキト雖敢テ自ラ欺イテ
 其真確ナリトスル所ニ背ク可ラス、(按)人若迷溺
 フレノ心ヲ論ニ、必、此心ヲ公然ト發露シテ可ナリ、
 決レテ輿論ニ媚從レテ、陽ニ信神ノ人トナル可
 ラス、若、陽ニ信神ノ人トナルハ、自ラ欺キ又人
 ヲ欺クノ小人ナリト云フノ意也、猶再考スヘシ、
 [第二]是故ニ各人皆自ラ是トスル所ノ教ヲ主張
 スルノ權ヲ有スト雖教旨ヲ道出スニ於テ、或ハ
 國家ノ認許セル教會制度(按)自ラ信セサルヲ罵
 教會ノ制度ナリ、ヲ罵
 辱シ、或ハ其存在ヲ妨害スルカ如キハ、決レテ許

ス所ニアラス、蓋、一個人ノ權利ハ、他ノ權利及公
 衆一般ノ權利ノ為ニ限制セラル、一、固ヨリ當
 然ナリ、是ニ於テ國家ハ必、二個ノ義務ヲ相合シ
 テ、之ヲ恪守セサル可ラス、二個ノ義務ヲ相合ス
 トハ何ソヤ、即、一個人奉教自由ノ權ヲ保護スル
 ト、及ヒ教會并ニ其權利ヲ保護シテ、共ニ安全ヲ
 得セシムルヲ云フナリ、○例ハ猶太人ハ基督
 ヲ以テ、實ニ天神ヨリ差遣セル救世主ト為サス
 ト雖國家敢テ之ヲ罪スルヲ得ス、スケブチケル
(按)萬事先、疑ヲ生シ、而後ニ其理ヲハ、
 探討考窮スルヲ貴ブ学派ナリ、 縱令史傳ノ

啓示言ヒストリ史傳ニハ天神ノ自ラレ啓示セルレ教旨ヲ載ス、
 言ト啓示ヲ疑フト雖モ國家取テ之ヲ罪スルヲ得ス、
 又ハ前ニ出ツノ學者ハ、人ヲ以テ天
 神ノ造化セル所ト為サス、却テ天神ノ現出セル
 者トナスト雖モ國家取テ之ヲ罪スルヲ得サルナ
 リ、○但レ基督教ノ行ハル、國ニ於テ、若シ猶太人公
 然トキ基督ヲ罵辱シ、或ハスケブナケルル基督ノ祭
 日ニ於テ啓示言ヲ罵詈シ、以テ公然欺詐詭譎ヨ
 リ出ル者トナシ、暗愚昏迷ニ属スル者ト為レテ、
 其門徒ノ信神心ヲ損害シ、又バンタイスムスノ

學者、教會ノ天神造化ヲ説クノ故ヲ以テ、教士ヲ
 罵詈シテ、或ハ暗愚人ヲ以テ目シ、或ハ妄語人ヲ
 以テ目スル等ノ如キハ、即チ一個人公然教會ノ權
 利ヲ屈害スル者ト云フ可シ、故ニ此時ニ於テハ、
 國家其權ヲ以テ此屈害ノ所行ヲ罰スルヲ當然
 トス、
 但、教旨ヲ辨駁誹謗スルノ諸方法中ニ於テ、許ス
 ヘキ者ト罰スヘキ者トノ分界ヲ立ルト、儘容易
 ナラサルトアレバ、凡、教旨ヲ妨害シ、又ハ教會ノ
 權利及其體面ヲ毀損スル等ハトハ、必、外面ノ確

證アラサルハナレ、故ニ是時ニ方リテハ、國家ハ
 必、司法ノ大權ヲ以テ之ヲ罰シテ、能ク教會ヲ保
 護スルノ義務ニ適スヘシ、其他若、辨駁誹謗ノ宜
 シク許スヘキ者ナルヤ、將之ヲ罰スヘキ者ナル
 ヤ、甚、分別シ難キキト雖、大抵審理ヲ施スニ方リ
 テ、辨駁誹謗ノ情勢ヲ探索スレハ、其分別自ラ容
 易ナルヲ得可シ、○書籍上ニ於テ教旨ノ是非善
 惡ヲ辨論スルコトアリテ、敢テ教會ノ體面ヲ毀損
 スルヲ主旨トセス、或ハ少シク教會ヲ誹謗スル
 ノ語アルモ、其語辨論ニ就テ甚、緊要ナルキノ如

キハ、國家敢テ之ヲ罪スルノ權ナレ、但、辨論ノ意
 專ラ條理ヲ主トセス、故、ニ教會ノ體面ヲ毀損ス
 ルヲ旨トスルキハ、國家必、之ヲ罪セサル可ラス、
 〔第三〕奉教宜レク其人ノ自由ナルヘキヲ、既ニ論
 說セシカ如レト雖、若、公衆ノ安寧ヲ損害スルノ
 處置ヲ施ス者アルキハ、必、之ヲ許可セサル可ク、
 且、其情勢ニ由リテハ、或ハ之ヲ罰セサル可ラス、
 國家ハ必、先、公衆ノ安寧ヲ保護シテ、損害ヲ受ケ
 サラレムルヲ以テ其主務トナレ、一個人ノ自由
 權ヲシテ、決レテ公衆ノ安寧ヲ妨害スルニ至ラ

サラシム可レ、國家若此權カヲ施用セサルコト
 レハ、則チ自ラ主務ヲ放擲スト云フ可レ、○但事ノ
 公衆安寧ニ害アルト否トヲ決定スルノ權カ及
 權利ハ、即チ國家ノ掌中ニ在リテ、固ヨリ一個人ノ
 掌中ニアラス、縱令_レアタイスムスノ性理學士其
 辨論ヲ以テ、天神ノ能カヲ非ナリト為スコトアリ
 氏、國家之ヲ許シテ保護スヘキコト當然ナリ、去レ
 氏此學士若此ノ如キ論ヲ以テ、衆民ヲ聚集煽動
 スルカ如キハ、國家敢テ之ヲ許ス可ラス、又宣教
 者_レデ_レ及_レ新聞述作者_レヨ_レウル_レナ_レ、等、道義ノ原理

〔國家ノ法制モ亦由テ出ル所ノ原理〕ヲ公然誹謗
 シテ、衆民ノ心志ヲ迷亂シ、以テ其暴惡ナル情欲
 ヲ發動セシムル_レル_レル_レ如キハ、國家敢テ之ヲ許ス
 可ラス、

第四款

第二

國教

專_レラ_レ信_レ仰_レス_レル_レ教_レ道_レヲ_レ云_レフ、
〔按〕國家

太古ヨリ近世ニ至ル迄、人皆神道ヲ以テ、帝ニ國
 家法制ノ為ニ最要ノ基礎タル者ト為スノミナ
 ラス、國家ハ決レテ神道ヲ離ル、能ハサル者ト

為セリ、故ニ羅馬國太古偶像教（按）真神ヲ信セム
ハイデニツム
レテ偶像ヲ拜スル教ヲ云、即チ猶太教、基督教及
馮哈默教ヲ除クノ外ハ皆偶像教ト稱ス、馬哈默
教一ニ回ル教ト奉シタル時ニ方リ、緊要ノ政
務ハ必ス先、神意ヲ窺ヒ、其准許ヲ願フノ後ニアラ
サレハ、決シテ之ヲ施行スルヲアラサリキ、○且
後世歐羅巴ニ於テモ、國家必ス自ラ基督教ヲ奉セ
サル可ラスト規定スルノ理ハ、宛、歐洲ノ仇敵ナ
ル馬哈默國（按）馬哈默
教ヲ奉スル各國ヲ云、即チ土耳其及其
近隣ノ各國ニ於テ、必ス馬哈默ノ教道ヲ奉セサル
ヲ指スナリ、
可ラサルノ理ト、全ク相同シカル可シト云フノ

論頻ニ蔓延セシカ、之ヲ非トスル者ハ絶エテア
ラサリキ、
然ルニ近世始テ、政教ノ一致ヲ全ク破壊セント
欲スルノ論起リテヨリ、國家ハ敢テ自ラ神道ヲ
奉シ、神道ヲ勸ムルヲ要セスト云フノ論、盛ニ生
スルニ至レリ、初、此論ヲ立テシ者ハ、大抵素自己
ニ神道ヲ好マサル者ノミナリシカ、遂ニハ決シ
テ自己ノ好惡愛憎ヲ用ヒス、專ラ理ノ當否ニ由
リ、奉教自由ノ名ヲ以テ、此論ヲ主張スル者漸々
増加スルニ至レリ、○此論ハ元來國家ノ活動（按）首

考第一、款ニ關シテ、專ラ國家ノ法制ニ關スル
 非ス、故ニ其得失可否ヲ決定スルハ、專ラ國政
 別ハ首卷第一款ニ出ツ、トノ處分ニ在ルヘキナ
 リ、但、國家或ハ偏ニ某一教ヲ以テ國教トナシ、或
 ハ偏ニ某一教ニ因テ國家ノ法制ヲ設立スル等
 ノ一アルハ、政教一致ヲ破壊セント欲スル議
 論ノ得失可否ヲ決定スル、當ニ國政上ノミナ
 ラス、又國法上ニ關係スル固ヨリ論ヲ俟タス、
 國教リスダ、オンツレト國教會キルヘツトハ、其旨全
 ク相殊ナリ、決シテ混同ス可ラス、國家ハ某一教

ニ歸依シ及之ヲ信奉スルヲ得可シ、例ヘハ基督
 教ニ歸依シ之ヲ信奉スルカ如シ、去レ此一教
 内ニ於テ專ラ某一派某一教會ヲ、國家ノ教派教
 會ト為スハ固ヨリ不可ナリ、基督教ノ諸派各其
 教旨及ヒ其式禮ヲ異ニスル所アリト雖、是等ノ一
 ハ決シテ國家ノ利害ニ關スルニアラス、縱令、國
 家ニ利害ヲ生スル一アルモ甚、僅々ノミ、○基督
 教分レテ數派トナルト雖、神道ノ真確ナル原理
 ニ至リテハ、數派皆同一ナリ、決シテ彼此ノ派ヲ
 取捨スルヲ要セス、是故ニ國家ハ能ク基督教ヲ

以テ自己ノ教道ト為ス可シ、特ニ其末派ナル加
特力若クハ波羅特旦ヲ取テ自己ノ教派教會ト
為スヲ得ス、

古時ハ各國必專ラ某一教派ヲ信奉シ、之ヲ以テ
國家ノ主派ト為シタリシレバ、歷史上ニ瞭然タリ、
是故ニ基督教始テ世ニ行ハル、ニ至リシ頃ニ
ハ、或ハ加特力ノ國ト稱スル者アリ、或ハアリア
ニスムス〔按〕紀元四百年代ニ於テアリウスノ創
立セシ、基督教ノ一派ナリ、此教派ニテ
ハ基督ヲ以テ天神ノ子ト為
サス、唯一個人トナセリ、國ト稱スル者ア
リ、又其後ニ至リテハ、或ハ希臘加特力派ヒギ
リス、カ

トリシ〔按〕加特ノ國アリ、或ハ羅馬加特力派レ
シ
カトノ一〔按〕亦加ノ國アリキ、其後中古ノ時代ニ
特カトノ一〔按〕亦加ノ國アリキ、其後中古ノ時代ニ
ハ、遂ニ各國皆專ラ信奉スル所ノ一教派アラサ
ルナキニ至レリ、又教會改正前ニ後ニ至リテ
モ、猶各國多クハ加特力派或ハ波羅特士且派ヲ
主トナシ、而テ專ラ其主トスル所ノ教派ニ信從
シタリキ、○獨、瑞、士、盟、邦、及、獨、乙、帝、國、ニ、於、テ、ハ、二
派〔按〕加特力波羅特士ヲ合併セント欲スレバ能
ハス、又二派ノ一ヲ主派トセント欲スレバ能
サリシカ故ニ、遂ニ二派若クハ三派ヲ共ニ認許

シテ之ヲ同等ノ者トシテ相並立セシムルト
 ナセリ、^①去レ其初ハ已ムヲ得サルニ出タル
 處置ナルヲ以テ、其制度甚完全ナラサリキ、然ル
 ニ北亞米利加始テ國ヲ建ツルニ及テ、國家一教
 派ヲ主トシテ、專ラ之ヲ信奉スルノ制度ヲ全ク
 取用セサルト定メシヨリ、方今開明セル各國
 此制度ニ倣テ主派ヲ立ツルヲ廢シタリ、(一千
 七百九十一年 寛政三年ノ國憲ニ於テ此法ヲ定メタ
 リ、^{〔接亞米利加〕} 蓋亞米利加 ○方今開明セル各國斯主派ヲ
 立ルノ制ヲ廢セシカハ、未嘗主教ヲ廢シ、信神ノ

道ヲ廢スルニ至ラス、加之歐羅巴及亞米利加ニ
 於テハ、今猶必基督教ヲ以テ其開明ノ大基礎タ
 ル者トナシ、且信神ノ道ヲ定メ、道義ヲ勸ムル大
 活動カトナシテ、大ニ之ヲ尊信ス、^② ○獨自己ノ
 教旨ヲ固執シ、及自己ノ規制法則ヲ墨守スル基
 督教ノ如キハ、專ラ主派ヲ立テサル國ノ為ニ甚
 害アリト雖實ニ活用ニ適セル基督教ノ如キハ
 決シテ否ラズ、是故ニ基督教ヲ以テ國家ノ主教
 ト為スハ可ナリ、^加特力又ハ波羅特士旦ヲ以テ、
 主派ト為スカ如キハ甚不可ナリ、必此二派ヲ同

等ノ者トナスヲ緊要ト為ス、

○瑞士ニテハ一千五百二十九年享祿ニ於テ

諸派ヲ同等ノ者ト為スノ制度ヲ立テ、又獨乙

帝國ニテハ甲利第五世在位按一十五百十九年ヨリ其五十八

至ベニノ時ニ於テ、諸派ヲ同等ノ者ト為ス、既

ニ胚胎セレカニ、其制度ノ確定シタルハ、一千

六百四十八年慶安エストハーレンノ講和ニ

由レリ、

○ランゲノ著書ニ云、基督教ハ漸行ハル、ニ

從テ、各國ノ富强隆盛ノ基礎ヲ開キレカニ、其

門派ヲ主張スル處分ノ如キハ、各國共ニ其國

家ノ患害ヲ生セサルハ無カリキト、

プヘンドルフ獨シ人、一十六百三十二年及ルウ

サウ例人、一十七百十二年ニ死ス、一個ノ學派ヲ創立

セレヨリ以來ハ、國教ト云ハル語ニ一種ノ新義

ヲ生シタリ、○凡、國家ハ元來諸權利ヲ保護スル

カ為、ニ結ヒタル會社ナレハ、基督教ト他教トノ

差別ナク、總テ保護ノ術ヲ盡スヘキ、當然ナリ、

故ニ其法制ニ於テ、天理神道ナツルリハ、（按）惟一真神

ヲ畏敬スルハ、猶太（啓示言）基督教諸教ノ如レト雖、此諸教

天理人性ニ從テ神道ヲ説クヲ云フ、即チ、
 道別ニ一種ノ教門ト以テ啟示言ヲ用フル諸
 教ノ根本タルヘキ者トシテ、專ラ之ヲ取ルハ可
 ナリ、〔按〕啟示言ヲ用フル諸教ノ一ニ偏セズシテ、
 フハ可意ナリト云去レ、凡ルウサウノ論ノ如ク、國家
 其憲法ヲ以テ、自ラ此天理神道ノ原則ヲ確定ス
 ルヲ好ト為スハ、大ナル謬見ナリ、國家若此ノ如
 キ處分アラハ、遂ニ自ラ患害ヲ招クニ至ル必然
 ナリ、國家縱令、此ノ如キヲ為ス、凡ル畢竟衆民ヲ
 教化スルニ足ラス、且、教ト法トハ元來相合レ難

ク、又幽界ニ於テ天神ト人ノ靈魂ト相交關スル
 ノ理モ、亦顯界ノ國家法制トハ全ク相合レ難キ
 者ナルニ、強ヒテ之ヲ相合併セシメント欲スル
 ハ、謬見ノ甚レキ者ト云フ可キノミ、○是故ニ國
 家基督教ニ偏セズ、專ラ天理神道ヲ取ル可シト
 云ヘル語ノ義ヲ以テ、國家ハ宜シク基督教ニ偏
 セズ、專ラ天理人性ノ當然ニ從ヒ、各人ヲレテ其
 是トスル所ノ教道ヲ自由ニ奉セシム可シト云
 ヘル義ト視做スヲ要ス、此ノ如クナレハ、則チ國家
 其臣民ヲ待ツニ、基督教ヲ奉スルト否トニ由テ、

區別ヲ為サス、全ク兆民ヲ同視スルノ正理ニ合
スルナリ、而テ國家若其政令ニ於テ、教道ノ規制
ヲ取用スルヲ要スルコトアラハ、何教ノ規制ニ論
ナク、其政令ノ目的ニ最、適合セル者ヲ擇ヒ取用
スヘキナリ、例ヘハ其規制基督教猶太教馬哈默
教若ハ佛教等ニ屬スルモ、決シテ妨ケナレトス、
○右論スル所ノ如クナルキハ、國家其國內ノ諸
教及諸教論ニ對シテ、全ク不羈獨立ノ地位ヲ占
ムルヲ得、我一教ヲ偏取セ且決シテ教門ノ朋黨
或ハ仇敵トナルノ患害ナク、唯專ラ諸權利ヲ保

護スルカ為ニ結ヘル會社タルヲ得ルナリ、故ニ
國家タル者ハ其法制ヲ以テ、帝ニ神道ノ開明上
進ヲ保護スルノミナラス、之ニ由テ遂ニ自己ノ
開明上進ヲモ增益スルヲ得ヘシ、○國家教道ニ
関スルノ方法此ノ如クナル者ヲ稱シテ、國家関
教ノ自由ト云フスタイトリハ、我國國家專ラ一教ニ
從フヲ要セサルノ法ナリ、
然ルニ各國古今ノ沿革ニ由テ、教道ニ関スルノ
方津相異ナリ、既ニ漸、開明セル者アリ、或ハ未、開
明セサル者アリ、其別即、左ニ舉ルカ如シ、

〔第二〕歐洲各國ノ中ニ就テ、猶專ラ某一教派ヲ奉スル者數國アリ、例ハ、峨羅斯及希臘ノ二國ハ專ラ希臘加特力派ヲ奉シ、西班牙及葡萄牙ノ二國ハ專ラ羅馬加特力派ヲ奉シ、意大利各國モ亦輒近ニ至ル迄專ラ之ヲ奉シ、又瑞典及那威ノ二國ハルテル派〔按〕ルテル創立スル所ナリ、ヲ奉シ、英國ノ如キモ、仍專ラホーフキルハ派〔按〕波羅特士ヲ奉ス、但レ此國ハ王國以太利ト同シク、輒近新法ヲ創立レテ、基督諸派ヲ同等ノ者ト為スノ制度、即即閑教自由ノ制度ヲ次第ニ全備セント欲ス。○

○希臘ノ國憲ニ云、希臘國ノ教道ノ主派ハ希臘加特力派ナリ、但レ其他ノ教派モ亦之ヲ容忍シテ其教育ヲ保護ス可シ、○那威國ノ國憲ニ云、ルテル派ハ本邦ノ公教ナリ、此教派ニ歸依スル住民ハ、其子ヲシテ必ス此教派ノ教育ヲ受ケシメサル可ラス、エリースイテンオルデン及メンフオルデン〔按〕加特力派中ハ國內ニ在ル種ノ教社ヲ許サス、并ニ猶太教徒ハ國內ニ入ルヲ許サス。

〔第二〕基督諸派ヲ同視スル〔殆〕同等ノ者トナス制

度ハ北亞米利加ハ勿論、其他獨乙各國及奧地利
 普魯士(但奧地利ニテハ殊ニ加特カヲ重シ、普魯
 士ニテハ殊ニ波羅特士且ヲ重ス)佛國比耳時瑞
 士合邦等ニ於テ殊ニ之ヲ用ス、[⊖]

⊖獨乙同盟法ニ云、獨乙同盟各國ニ於テハ、基
 督教ノ諸派ニ由テ、民權及公權ニ差別ヲ立ツ
 ルヲナカル可シト、

〔第三〕佛國ニ於テハ、初民主政體ヲ立ルニ方リテ、
 顛覆病ノ激熱熾ニ發セシカハ、^{〔按〕}譬喻ノ遂ニ一
 時全ク諸教ヲ廢止シテ、畏敬ス可キ神ナル者ハ

絶_エテ之_レヲラストナセリ、去_レルロベスピエール_人

一_ニ殺_サル_ル顛覆党ノ巨魁ノ一人ナリ、^{其九十四年}スラ、尚必_ク

至高至尊ノ一物ヲ畏敬スルノ緊要ナルヲ悟リ

ケレハ、遂ニ天理神道ヲ立テサル可ラスト為セ

リ、

〔第四〕近令開明進歩セル各國ニテハ、國家其法制

ニ於テ獨、天理神道ニ遵從シ、而テ實ニ諸教ヲ同

等ノ者トナスノ制度ヲ全備セント欲スル多少

ノ志情アリト雖、亞米利加ヲ除クノ外ハ、未_ダ曾_テ此

理ヲ國憲上ニ明記セシ者之_レアラス[⊖]

◎亞米利加合衆國一千七百九十一年寛政三年

國憲ニ云、「コングレス府」立法ハ敢テ國教ヲ立

ルノ憲法ヲ設クル能ハス、或奉教自由ノ妨害

トナル可キ憲法ヲ設クル能ハスト、

國家躬、神道殊ニ基督教ニ從事スルノ方法ハ、左

ニ示スカ如シ、「按」蓋各國皆左ノ數方法ヲ用フト

ル國アリ、或ハ僅ニ其二三ヲ用フル國アリ、各一様ナラス、

〔第一〕將ニ大政令ヲ創始シ、或ハ之ヲ施行シ、及新

制度ヲ設立セントスルニ方リテハ、必先祭典ヲ

行ヒ之ヲ天神ニ告ク、例ヘハ立法府ノ會議ヲ開

ク時、嗣君即位スル時、或ハ新國憲ヲ創立スル時

ニ於テ祭典ヲ行ヒ、又戰爭若クハ天下一般ノ災

害起ルニ方リテハ、公然祈禱ノ禮ヲ行ヒ、又國內

一般ノ為ニ悔悟祭、謝恩祭、及回想祭「按」例ヘハ、往

建テレ盛業ヲ回想シ、或ハ外寇ヲ拂攘シテ、國家

ヲ泰山ノ安キニ置キレ大功ヲ回想スルカ為ニ、

施行スル祭典ヲ行フノ類ヲ云フナリ、○凡、國家

自ラ道德ヲ重スル所以ヲ明示セント欲シ、且、自

ラ仁義ノ治ヲ為サント欲セハ、必先、自ラ祭典ヲ

行ヒ、自ラ天神ヲ敬拜スルニ如クハナシ、

〔第二〕基督教ノ眼目要旨ニ從テ憲法ヲ立ツ

〔第三〕基督教ヲ保護勸誘及播布セシカ為ニ、國家自ラ其諸般ノ制度ヲ設ケ且其事ニ關ス、

〔第四〕基督教若クハ他教ノ敬神禮拜ヲ妨害シ、或ハ衆民ノ信仰ヲ公然罵辱スル者アルニ方リテハ、國家之ヲ譴罰ス、

〔第五〕國家一個人奉教ノ誓約アイド、〔按〕堅ク教旨述告スヲ為スノ方法ヲ設立ス、但レ縱令レ基督教ヲ奉セサル者ト雖自己ノ教門ノ制度ニ從テ誓約ヲ為シテ、其教道ノ要旨ヲ遵奉スルルルハ、國家之ヲ許可保護セサル可ラス、

〔第六〕許多ノ國ニ於テハ、基督教ヲ奉スル者ニアラサレハ、政府若クハ法院ノ官ニ登用シテ、政務司法等ノ權ヲ掌ラシメサルノ制度ヲ立ツ、○ ○ 但レ縱令レ基督教ノ國ト雖レ此制度ハ必ス緊要ナリト云フ可ラス、若シ民人過半基督教ヲ奉セスレテ、他教ニ歸依スルヲアルニ方リ、此徒ヲシテ政務及司法ノ官ニ任スルヲ得サラシムルヲアラハ、是即チ不正非理ノ制度ト云フテ可ナリ、何者基督教ヲ奉セサル者ハ、必ス良善ノ政令、公正ノ裁判ヲ為ス能ハサル者トスルハ甚ク非ナレハナリ、○ 北亞

米利加ニ於テ職官授任ノ一ニ就テハ、決シテ本
 人奉スル所ノ教門如何ヲ論ス可ラスト為スノ
 制度ハ、元來主派ヲ立テサル國〔按〕基督教ヲ以テ
 士ト雖キ其分派ナル加特力若クハ波羅特ヨリモ、
 一層進歩シタル者ナリ、〔按〕亞米利加國ハ、專ラ天
 ルカ故ニ、〔按〕但、綴令此國ト雖、天理神道ヲモ信セ
 スレテ神ヲ疑フ者ハ、決シテ官吏トナルヲ得可
 ラス、何者官吏ノ國憲誓約文ホルレリヒト、
 憲ヲ遵守スヘキ旨ヲ奉承スルニ方リテ、必國ハ元
 來天神ニ誓フ者ナルニ、公然神ヲ信仰セサル徒

人此誓約ヲ為スヘキ理、絶テアラサレハナリ、
 卷之二第二十二款ヲ參看ス可シ、○北亞米
 利加ノ制度ハ全ク之ニ反セリ、曰ク「國家ノ諸
 職官ヲ授任スルニ、決シテ本人奉スル所ノ教
 道如何ヲ問フヲ要セスト、

長川新吾 校

國法汎論卷之九上終

國海川詩
卷九
音



昭和四年
○第3065號
11.月1日受入

00
2
b8